論文

教育的観点から見たドイツ語の人称語尾

外国語学部ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻　人見明宏

0. はじめに

ドイツ語の動詞は，法，態，時称に応じて人称変化する。そのうち，助動詞を伴わない統合的形式の人称変化には，直説法能動態の現在人称変化（以下：現在人称変化），直説法能動態の過去人称変化（以下：過去人称変化）および接続法能動態の現在人称変化（以下：接続法現在人称変化）[1] の三つがある [2]。この三つの人称変化において，さらに不定詞は主語の人称と数に応じて，定動詞となる。

上の三つの人称変化は，また一方で，1 人称単数と 3 人称単数の定動詞が異なる形態になるタイプ（以下：タイプⅠ）と同一形態のタイプ（以下：タイプⅡ）の二つに大別される。タイプⅠは「一般動詞」[3] の現在人称変化であり，例えば，不定詞 lernen に対し，1 人称単数では (ich) lerne，3 人称単数では (er) lernt と人称変化する。一方，タイプⅡに属するのは，話法の助動詞および wissen の現在人称変化，すべての動詞の過去人称変化，およびすべての動詞の接続法現在人称変化である。また，接続法は接続法第Ⅰ式と第Ⅱ式に下位分類される。

<table>
<tr><td>タイプⅠ</td><td colspan="2">一般動詞の現在人称変化</td></tr>
<tr><td rowspan="4">タイプⅡ</td><td colspan="2">話法の助動詞の現在人称変化</td></tr>
<tr><td colspan="2">wissen の現在人称変化</td></tr>
<tr><td colspan="2">過去人称変化</td></tr>
<tr><td rowspan="2">接続法現在人称変化</td><td>接続法第Ⅰ式</td></tr>
<tr><td>接続法第Ⅱ式</td></tr>
</table>

上記の各人称変化は，大多数の文法教科書で取り上げられているが，特に過去人称変化と接続法現在人称変化における人称語尾の提示方法は必ずしも統一されておらず，また学習者にとってわかりやすいかという点でも検討が必要である。本論文では，ドイツ語学習者，とりわけ初学者が習得すべき基本的な人称語尾に関して，その提示方法を中心に考察し，人称語尾の新たな提示方法と名称を提案する [4]。

1. 教科書における人称語尾の提示方法

以下では，教科書における各人称変化とその人称語尾の主な提示方法（特に変化表）を挙げ，複数の提示方法がある場合は，それらを比較して考察する。

1.1. タイプⅠ

タイプⅠでは，1人称単数と3人称単数の定動詞の形が異なる。このタイプに属するのは，一般動詞の現在人称変化のみである。またこの人称変化では，各人称に対する語尾も動詞によって異なる形態をとらない。以下に，現在人称語尾[5]と現在人称変化の例を挙げる[6]。

表1：現在人称語尾

	単数	複数
1人称	ich －**e**	wir －**en**
2人称	du －**st**	ihr －**t**
3人称	er －**t**	sie －**en**

表2：現在人称変化

不定詞：lernen 語幹：lern-	
単数	複数
ich lern**e**	wir lern**en**
du lern**st**	ihr lern**t**
er lern**t**	sie lern**en**

現在人称語尾に関しては，教科書によっては，2人称の扱い（親称の du，ihr と敬称の Sie）などに違いがあるものの，人称語尾の形態そのものには違いがなく，教科書おける人称語尾の提示方法も一種類のみである。

1.2. タイプⅡ

タイプⅡは，1人称単数と3人称単数の定動詞の形が同一である人称変化である。このタイプに属するのは，話法の助動詞および wissen の現在人称変化，過去人称変化および接続法現在人称変化である。以下では，それぞれの人称変化ごとに人称語尾の考察をすすめる。

1.2.1. 話法の助動詞の現在人称語尾

ドイツ語の話法の助動詞には，dürfen，können，mögen，müssen，sollen，wollen の六つがある。その現在人称変化の特徴は，（sollen 以外は）不定詞の幹母音などが単数形で変化し，また1人称単数と3人称単数で人称語尾がつかず，定動詞が同じ形になることである。他の人称語尾は，一般動詞のそれと同じ形態である。人称語尾のこの特徴に関して，一部の教科書では言及されているが，他の多くの教科書では，単に話法の助動詞の現在人称変化表が記載されているのみである。また，その語尾に対しても，一般動詞の現在人称変化とは異なり，特別な名称は付与されていない。本論文では，この人称語尾を仮に「話法の助動詞の現在人称語尾」と名づけ，以下に記載する[7]。

表3：話法の助動詞の現在人称語尾

ich －▲	wir －**en**
du －**st**	ihr －**t**
er －▲	sie －**en**

また，以下に話法の助動詞 können と müssen の現在人称変化を挙げておく。

表 4: können の現在人称変化

不定詞: können			
語幹: könn-			
ich	kann▲	wir	könn**en**
du	kann**st**	ihr	könn**t**
er	kann▲	sie	könn**en**

表 5: müssen の人称変化

不定詞: müssen			
語幹: müss-			
ich	muss▲	wir	müss**en**
du	muss**t**	ihr	müss**t**
er	muss▲	sie	müss**en**

話法の助動詞の現在人称語尾で，唯一の例外が müssen の 2 人称単数に対する語尾 -t である。しかし，これは口調上の例外でしかなく，基本的な人称語尾としては，話法の助動詞の現在人称語尾は一種類のみである。

1.2.2. wissen の現在人称語尾

動詞 wissen の現在人称変化は以下のとおりである。

表 6: wissen の現在人称変化

不定詞: wissen			
語幹: wiss-			
ich	weiß▲	wir	wiss**en**
du	weiß**t**	ihr	wiss**t**
er	weiß▲	sie	wiss**en**

wissen も，話法の助動詞の場合と同様に，不定詞の幹母音が単数形で変化し，1 人称単数と 3 人称単数で人称語尾がつかず，定動詞が同じ形になる。また他の人称語尾も，一般動詞のそれと同じ形態である [8]。ただし wissen は，2 人称単数に対する語尾が -t となるが，これは，話法の助動詞 müssen と同様に，口調上の例外でしかない。したがって，基本的な人称語尾としては，話法の助動詞の現在人称語尾と同一である。また，この人称語尾に対しても，特別な名称は付与されていないが，先の「話法の助動詞の現在人称語尾」とあわせて，「話法の助動詞と wissen の現在人称語尾」と仮に呼ぶことにする。

1.2.3. 過去人称語尾

一般動詞の現在人称変化，話法の助動詞および wissen の現在人称変化ならびに各人称語尾の提示方法に関しては，教科書による違いはない。これらに対し，過去人称変化では，その人称語尾の提示方法が大きく二つに分かれている。

過去人称変化では，多くの教科書が「過去基本形」という概念を導入している。この過去基本形に，過去人称語尾をつけて過去人称変化させるという点では，多くの教科書で一致している。異なっているのは，その過去人称語尾の提示方法である。

第 1 の提示方法は，1 人称複数および 3 人称複数の人称語尾を二つに分けて提示する方法（以下：提示方法 A）である。そのうちの一つは，弱変化動詞などに対するもので，以下の人称語尾および人称変化である [9]。

表 7: 過去人称語尾

ich	－▲	wir	－**n**
du	－**st**	ihr	－**t**
er	－▲	sie	－**n**

表 8: 過去人称変化

不　定　詞: lernen			
過去基本形: lernte			
ich	lernte▲	wir	lernte**n**
du	lernte**st**	ihr	lernte**t**
er	lernte▲	sie	lernte**n**

もう一つの人称語尾および人称変化は強変化動詞などに対するもので，以下のとおりである。

表 9: 過去人称語尾

ich	－▲	wir	－**en**
du	－**st**	ihr	－**t**
er	－▲	sie	－**en**

表 10: 過去人称変化

不　定　詞: kommen			
過去基本形: kam			
ich	kam▲	wir	kam**en**
du	kam**st**	ihr	kam**t**
er	kam▲	sie	kam**en**

この提示方法 A では，学習者は，一部が異なるとは言え，二種類の人称語尾を覚える必要がある。

第 2 の提示方法は，以下のように，1 人称複数および 3 人称複数の人称語尾を一つにまとめて -(e)n と提示する方法（以下：提示方法 B）である [10)]。

表 11: 過去人称語尾

ich	－▲	wir	－**(e)n**
du	－**st**	ihr	－**t**
er	－▲	sie	－**(e)n**

提示方法 B の場合，人称語尾 -(e)n について何ら説明がなされていない教科書が多いが，「過去基本形が -e で終わるものは，1 人称複数と 3 人称複数の人称語尾は -n のみ」などの説明がなされている教科書もある。しかし，そのような説明がなされていても，過去基本形が -e で終わらないものにつける人称語尾が -en なのか -n なのかはわかりにくく，とりわけ初学者にとっては判断が難しいと思われる。

過去人称語尾に関しては，提示方法 A と B のどちらが学習者にとってわかりやすく，かつ負担が少ないかは，現時点では判断がつかない。この点に関しては，のちに改めて検討する。

1.2.4. 接続法現在人称語尾

接続法現在人称変化では，人称語尾をつける「基本形態」によって，二つの提示方法に大別される。一つは，接続法第 I 式で不定詞の語幹に，接続法第 II 式で過去基本形に人称語尾をつけるという提示方法（以下：提示方法 C）である。もう一つは，（過去人称変化の際の過去基本形と同様に）「接続法第 I 式基本形」および「接続法第 II 式基本形」という概念を導入

し，この基本形に人称語尾をつけて作るという提示方法（以下：提示方法 D）である。

提示方法 C については，さらに，接続法第 I 式と第 II 式に同一の人称語尾を用いるとする提示方法（以下：提示方法 C1）と，一部ではあるが異なる人称語尾を用いるとする提示方法（以下：提示方法 C2）に細分される。まず，提示方法 C1 であるが，この場合の接続法現在人称語尾と具体的な人称変化は以下のとおりである。

表 12：接続法現在人称語尾

ich	－**e**	wir	－**en**
du	－**est**	ihr	－**et**
er	－**e**	sie	－**en**

表 13：接 I 現在人称変化

不定詞：lernen			
語幹：lern-			
ich	lern**e**	wir	lern**en**
du	lern**est**	ihr	lern**et**
er	lern**e**	sie	lern**en**

表 14：接 II 現在人称変化

不定詞：lernen			
過去基本形：lernte			
ich	lernt**e**	wir	lernt**en**
du	lernt**est**	ihr	lernt**et**
er	lernt**e**	sie	lernt**en**

表 15：接 II 現在人称変化

不定詞：kommen			
過去基本形：kam			
ich	käm**e**	wir	käm**en**
du	käm**est**	ihr	käm**et**
er	käm**e**	sie	käm**en**

この提示方法の問題は，表 14 に見られるように，弱変化動詞 lernen の場合，接続法第 II 式現在は，過去基本形 lernte ではなく，実際には lernt- という形態に接続法現在人称語尾がついて作られている点にある。

提示方法 C2 では，以下のように，接続法第 I 式と第 II 式の現在人称変化にそれぞれ人称語尾（表 16 および表 18）を提示している。

表 16：接 I 現在人称語尾

ich	－**e**	wir	－**en**
du	－**est**	ihr	－**et**
er	－**e**	sie	－**en**

表 17：接 I 現在人称変化

不定詞：lernen			
語幹：lern-			
ich	lern**e**	wir	lern**en**
du	lern**est**	ihr	lern**et**
er	lern**e**	sie	lern**en**

表 18：接 II 現在人称語尾

ich	－**(e)**	wir	－**(e)n**
du	－**(e)st**	ihr	－**(e)t**
er	－**(e)**	sie	－**(e)n**

表 19: 接Ⅱ現在人称変化

不　定　詞: lernen 過去基本形: lernte	
ich　lernte▲	wir　lernte**n**
du　lernte**st**	ihr　lernte**t**
er　lernte▲	sie　lernte**n**

表 20: 接Ⅱ現在人称変化

不　定　詞: kommen 過去基本形: kam	
ich　käm**e**	wir　käm**en**
du　käm**est**	ihr　käm**et**
er　käm**e**	sie　käm**en**

提示方法 C1 と異なり，提示方法 C2 では，弱変化動詞 lernen の接続法第Ⅱ式現在は，過去基本形 lernte に接続法第Ⅱ式現在人称語尾がついて作られる。しかし一方で，過去人称語尾の提示方法 B の場合と同様に，提示方法 C2 でも人称語尾 -(e)n については，「接続法第Ⅱ式基本形が -e で終わるものは，1 人称複数と 3 人称複数の人称語尾は -n のみ」などの説明がなされている教科書もあるものの，基本形が -e で終わらないものにつける人称語尾が -en なのか -n なのかは記載されている変化表から読み取るしかない。また学習者にとっては，部分的にのみ異なるとは言え，接続法第Ⅰ式現在と接続法第Ⅱ式現在の二つの人称語尾を覚える必要がある。

提示方法 C2 と同じく接続法第Ⅰ式と第Ⅱ式の現在人称変化を分け，さらに接続法第Ⅱ式現在人称変化を「規則動詞」と「不規則動詞」に分けて人称語尾を提示する方法（以下：提示方法C3）もある。今回調べた教科書のうち，一冊のみでこの提示方法が採られていた。接続法第Ⅰ式現在人称語尾と人称変化は，上記の表 16 および表 17 と同一である。以下に「規則動詞」（表 21，表 22）と「不規則動詞」（表 23，表 24 および表 25）の接続法第Ⅱ式現在人称語尾と人称変化の例を挙げる。

表 21: 接Ⅱ現在人称語尾

ich　－**te**	wir　－**ten**
du　－**test**	ihr　－**tet**
er　－**te**	sie　－**ten**

表 22: 接Ⅱ現在人称変化

不　定　詞: lernen 過去基本形: lernte	
ich　lern**te**	wir　lern**ten**
du　lern**test**	ihr　lern**tet**
er　lern**te**	sie　lern**ten**

表 23: 接Ⅱ現在人称語尾

ich　－**(e)**	wir　－**(e)n**
du　－**(e)st**	ihr　－**(e)t**
er　－**(e)**	sie　－**(e)n**

表 24: 接Ⅱ現在人称変化

不　定　詞: kommen 過去基本形: kam	
ich　käm**e**	wir　käm**en**
du　käm**est**	ihr　käm**et**
er　käm**e**	sie　käm**en**

表 25: 接Ⅱ現在人称変化

不　定　詞: werden 過去基本形: wurde	
ich　würde▲	wir　würde**n**
du　würde**st**	ihr　würde**t**
er　würde▲	sie　würde**n**

この提示方法C3では，接続法第Ⅱ式で，規則動詞と不規則動詞で異なる現在人称語尾が提示されている。しかし規則動詞の場合，表 22 にあるように，過去基本形にではなく，実際には不定詞の語幹に表21の接続法第Ⅱ式現在人称語尾がつけられており，この提示方法では学習者に混乱を引き起こしかねない。

一方，提示方法 D では，まず「接続法第Ⅰ式基本形」および「接続法第Ⅱ式基本形」という概念を導入し，これらの基本形の作り方を説明したうえで，この基本形に人称語尾をつけて人称変化形を作るとされている。その際，接続法現在人称語尾の提示方法は一種類（表 26）であり，接続法第Ⅰ式現在（表27），弱変化動詞などの接続法第Ⅱ式現在（表28）および強変化動詞の接続法第Ⅱ式現在（表29）の人称変化すべてでこの人称語尾が用いられる。

表 26：接続法現在人称語尾

ich	－▲	wir	－**n**
du	－**st**	ihr	－**t**
er	－▲	sie	－**n**

表 27：接Ⅰ現在人称変化

不　定　詞：	lernen		
語　　幹：	lern-		
接Ⅰ基本形：	lerne		
ich	lerne▲	wir	lern**en**
du	lern**est**	ihr	lern**et**
er	lerne▲	sie	lern**en**

表 28：接Ⅱ現在人称変化

不　定　詞：	lernen		
過去基本形：	lernte		
接Ⅱ基本形：	lernte		
ich	lernte▲	wir	lernt**en**
du	lernt**est**	ihr	lernt**et**
er	lernte▲	sie	lernt**en**

表 29：接Ⅱ現在人称変化

不　定　詞：	kommen		
過去基本形：	kam		
接Ⅱ基本形：	käme		
ich	käme▲	wir	käm**en**
du	käm**est**	ihr	käm**et**
er	käme▲	sie	käm**en**

提示方法 D では，接続法第Ⅰ式と第Ⅱ式の基本形の作り方を覚える必要はあるものの，接続法第Ⅰ式および第Ⅱ式の現在人称語尾が同一であるため，学習者にとっての負担は，提示方法Cよりも少ないと思われる。また，接続法第Ⅰ式基本形および第Ⅱ式基本形に，この人称語尾をつけて人称変化形を作るが，その際に例外がないことも，学習者にとっては有利である。これらの点から，接続法現在人称語尾の提示方法としては，提示方法 D が優れていると判断できる。

2. タイプⅡの人称語尾に関する考察

タイプⅠの人称変化に属するのは，一般動詞の現在人称変化のみであり，用いられる人称語尾に関しては，どの教科書でもその提示方法は同じである。この提示方法より優れた提示方法があれば別であるが，文法，講読，会話などの複数の授業を受け，それぞれの授業において異なる教科書で学んでいる学習者にとっては，教科書ごとに提示方法が異なることは混

乱を引き起こす原因にもなる。この点からも，タイプⅠの一般動詞の現在人称語尾の提示方法は，従来のもので問題ないと判断される。

教科書によって異なる人称語尾が提示されているのは，タイプⅡの人称変化である。以下では，この人称変化で用いられる語尾について，話法の助動詞とwissenの現在人称語尾，接続法現在人称語尾，過去人称語尾の順に考察する。

2.1. 話法の助動詞とwissenの現在人称語尾

話法の助動詞とwissenは，1.2.2. で述べたとおり，同一の人称変化をし，その人称語尾の提示方法は一種類でよい[11)]。以下ではこの人称語尾をタイプⅡaとする。

表 30： 話法の助動詞とwissenの現在人称変化

	タイプ Ⅱa	不定詞： 語　幹：	können könn-	wissen wiss-
ich	－▲		kann▲	weiß▲
du	－**st**		kann**st**	weiß**t**
er	－▲		kann▲	weiß▲
wir	－**en**		können	wissen
ihr	－**t**		könnt	wisst
sie	－**en**		können	wissen

2.2. 接続法現在人称語尾

接続法現在人称語尾は，1.2.4. で見たように，教科書によってその提示方法が最も異なっていた。しかし，接続法現在人称変化の際に，接続法第Ⅰ式基本形および接続法第Ⅱ式基本形を設定すれば，その人称語尾の提示方法は提示方法Dの一種類でよく，学習者にとってのわかりやすさと負担の少なさという点では，これの提示方法が優れている。この提示方法で採られている人称語尾をタイプⅡbとする。

表 31： 接続法現在人称変化

	タイプ Ⅱb	接Ⅰ現在人称変化		接Ⅱ現在人称変化	
		不　定　詞：	lernen	不　定　詞： lernen	kommen
		語　　幹：	lern-	過去基本形： lernte	kam
		接Ⅰ基本形：	lerne	接Ⅱ基本形： lernte	käme
ich	－▲		lerne▲	lernte▲	käme▲
du	－**st**		lerne**st**	lernte**st**	käme**st**
er	－▲		lerne▲	lernte▲	käme▲
wir	－**n**		lerne**n**	lernte**n**	käme**n**
ihr	－**t**		lerne**t**	lernte**t**	käme**t**
sie	－**n**		lerne**n**	lernte**n**	käme**n**

2.3. 過去人称語尾

過去人称語尾の提示方法は，1.2.3. で挙げたように，提示方法AとBとがある。このうち提示方法 B では，1 人称複数および 3 人称複数の人称語尾を一つにまとめて -(e)n と提示しているが，上述したように，この提示方法では，過去基本形が -e で終わらないものにつける人称語尾が -en なのか -n なのかがわかりにくい。さらに，このような括弧の使い方は，初学者にとっては誤解のもとになりかねない。すなわち，ドイツ語文法の教科書・参考書などにおける名詞の格変化でしばしば，男性・中性単数 2 格に Mann(e)s などの表記が見られるが，この括弧は省略可能を表しており，Mannes および Manns のどちらもが文法的に正しい。一方，過去人称語尾の -(e)n の場合は，過去基本形が -e で終わっているものには -n のみを，過去基本形が -e で終わっていないものには -en をつけなくてはならず，括弧は省略可能を表してはいない。そのため，例えば動詞 sein（過去基本形：war）の 1 人称複数形および 3 人称複数形は waren であり，warn は誤りであるにもかかわらず，warn を用いてしまう初学者も実際におり，このような括弧の使用は避けるべきである。それゆえ，過去人称語尾の提示方法としては，1 人称複数および 3 人称複数の人称語尾を二つに分けて提示する提示方法 A のほうが，学習者に誤解を引き起こさないという点で適切である。しかし，その結果，過去人称語尾には，以下のようにタイプⅡa とⅡb の二つを提示しなくてはならなくなる。

表 32： 過去人称変化

	タイプⅡa	不　定　詞：kommen 過去基本形：kam	タイプⅡb	lernen lernte
ich	－▲	kam▲	－▲	lernte▲
du	－**st**	kam**st**	－**st**	lernte**st**
er	－▲	kam▲	－▲	lernte▲
wir	－**en**	kam**en**	－**n**	lernte**n**
ihr	－**t**	kam**t**	－**t**	lernte**t**
sie	－**en**	kam**en**	－**n**	lernte**n**

なお，タイプⅡa の人称語尾は強変化動詞と sein の過去人称変化に，またタイプⅡb の人称語尾は，弱変化動詞，混合変化動詞および haben と werden の過去人称変化に用いられる。

3. 人称語尾の新たな提示方法・名称の提案

上で考察した人称語尾のタイプとそれが用いられる人称変化は，次のようにまとめられる。

人称語尾		人称変化
タイプⅠ		一般動詞の現在人称変化
タイプⅡ	a	話法の助動詞と wissen の現在人称変化
		強変化動詞と sein の過去人称変化
	b	弱変化動詞，混合変化動詞および haben と werden の過去人称変化
		接続法第Ⅰ式および第Ⅱ式の現在人称変化

以下では，人称語尾のタイプⅡaとⅡbを一つのタイプに統合した提示方法ならびに人称語尾の新たな名称について検討する。

3.1. 人称語尾タイプⅡaとⅡbの統合

学習者にとって，覚えなくてはならない語形変化の種類は少ないほど負担が軽いのは当然のことである。また，その提示方法において例外が少なく，かつ他の語形変化にも適用できる提示方法のほうが優れている。そのような提示方法の改善のためには，個々の人称変化ではなく，人称変化の全体を観察することも必要である。

すでに見てきたように，タイプⅡaとⅡbの人称語尾の差異は，1 人称複数と 3 人称複数の二箇所のみである。この二箇所の人称語尾が -en となるタイプⅡaの人称語尾をとる動詞の特徴は，その人称語尾がつく不定詞の語幹または過去基本形が -e で終わっていないもの（以下：ゼロ型基本形）である。一方，この二箇所の人称語尾が -n となるタイプⅡb の人称語尾をとる動詞の特徴は，その人称語尾がつく過去基本形または接続法第Ⅰ式・第Ⅱ式基本形が -e で終わるもの [12]（以下：e 型基本形）である。ここで問題となるのは，この二箇所の人称語尾の基本となる形態を -en（タイプⅡa）とするか，あるいは -n（タイプⅡb）とするかである。この点に関しては，タイプⅠの人称語尾との関連（表 33）から，前者のほうが優れていると判断できる。すなわち，タイプⅡaを基本とした場合，タイプⅠと異なるのは 1 人称単数と 3 人称単数に対する人称語尾二つのみである。一方，タイプⅡb を基本とした場合，さらに 1 人称複数と 3 人称複数を含め，四箇所でタイプⅠと異なる人称語尾を提示しなくてはならず，学習者にとっての負担が増加する。

表 33：人称語尾

	タイプⅠ	タイプⅡa	タイプⅡb
ich	**－e**	**－▲**	**－▲**
du	**－st**	**－st**	**－st**
er	**－t**	**－▲**	**－▲**
wir	**－en**	**－en**	**－n**
ihr	**－t**	**－t**	**－t**
sie	**－en**	**－en**	**－n**

この点を考慮すると，タイプⅡの 1 人称複数と 3 人称複数に対する人称語尾は -en を基本とし，この二箇所で，ゼロ型基本形の場合は -en をとる。一方，e 型基本形の場合は（曖昧母音 [ə] の連続を避け）人称語尾 -n をとるという説明が適切である。ただし，初学者に対しては，この二箇所の人称語尾は「基本形が -e で終わる場合は，-n のみ」といった簡潔な説明で十分であろう [13]。

以上から，タイプⅡaとⅡbの人称語尾はその提示方法がⅡaに統合され，これがタイプⅡの人称語尾として提示されることになる。また，この結果，学習者が覚えなくてはならないドイツ語の人称語尾はタイプⅠとⅡの二種類のみになる。

3.2. 人称語尾の新たな名称

多くの教科書で用いられている人称語尾の名称は，「現在人称語尾」と「過去人称語尾」の二つである。話法の助動詞と wissen の現在人称語尾および接続法現在人称語尾については，特に名称はつけられていないか，（接続法現在の人称語尾に関しては）名称がつけられていたとしても，その名称は教科書によって異なっている。また，話法の助動詞と wissen および接続法の現在人称語尾には，過去人称語尾と同じ語尾を用いるなどの説明も多い。しかし，現在人称変化に過去人称語尾と同じ語尾を用いるといった説明は，初学者にとってわかりやすいものであるかという疑問の余地が残る。また，話法の助動詞の現在人称変化の際に，「（一般動詞の）現在人称語尾」を用いてしまう誤りが初学者にしばしば見られる [14]。これは，タイプⅠの人称語尾に従来「現在人称語尾」という名称がつけられていることにも起因していると思われる。

初学者のそのような誤りを避けるため，そして，とりわけタイプⅡの人称語尾は，（話法の助動詞と wissen および接続法の）現在人称変化にも過去人称変化にも用いられるため，「現在」「過去」といった時称とは無関係な名称のほうがよいと考える。具体的には，タイプⅠの人称語尾に対しては「第Ⅰ人称語尾」，タイプⅡの人称語尾には「第Ⅱ人称語尾」という名称を提案する [15]。

第Ⅰ人称語尾	一般動詞の現在人称変化
第Ⅱ人称語尾	話法の助動詞と wissen の現在人称変化
	接続法（第Ⅰ式・第Ⅱ式）現在人称変化
	過去人称変化

4. まとめ

本論文では，ドイツ語の人称語尾に関して，その種類と名称および提示方法について考察してきた。その考察結果をまとめたのが，以下の表 34 と表 35 である。

表 34: 第 I 人称語尾

	第 I 人称語尾	現在人称変化 不定詞: lernen 語　幹: lern-
ich	**－e**	lern**e**
du	**－st**	lern**st**
er	**－t**	lern**t**
wir	**－en**	lern**en**
ihr	**－t**	lern**t**
sie	**－en**	lern**en**

表 35: 第 II 人称語尾

	第 II 人称語尾	話法の助動詞と wissen の現在人称変化 不定詞: können 語　幹: könn-	 wissen wiss-	過去人称変化 不　定　詞: lernen 過去基本形: lernte	 kommen kam	接続法第 I 式現在人称変化 不　定　詞: lernen 語　　幹: lern- 接 I 基本形: lerne	接続法第 II 式現在人称変化 不　定　詞: lernen 過去基本形: lernte 接 II 基本形: lernte	 kommen kam käme
ich	**－▲**	kann▲	weiß▲	lernte▲	kam▲	lerne▲	lernte▲	käme▲
du	**－st**	kann**st**	weiß**t**	lernte**st**	kam**st**	lerne**st**	lernte**st**	käme**st**
er	**－▲**	kann▲	weiß▲	lernte▲	kam▲	lerne▲	lernte▲	käme▲
wir	**－en***	könn**en**	wiss**en**	lernte**n**	kam**en**	lerne**n**	lernte**n**	käme**n**
ihr	**－t**	könn**t**	wiss**t**	lernte**t**	kam**t**	lerne**t**	lernte**t**	käme**t**
sie	**－en***	könn**en**	wiss**en**	lernte**n**	kam**en**	lerne**n**	lernte**n**	käme**n**

* 基本形が -e で終わる場合は, -n のみ。

また，ここで提案した人称語尾の提示方法と名称は，人見 (2008) でも採り入れ，ドイツ語教育において実践している。学習時におけるその効果と課題に関しては，今後も検証を続けていき，さらにその提示方法の改善を図っていく。

注

1) 接続法の時称は相対時称であり，接続法現在の代わりに，接続法同時という表現が用いられることもある。
2) 本論文では，命令法は考察の対象から除外している。
3) 本論文では，便宜上，話法の助動詞および wissen を除いた動詞を「一般動詞」と称する。
4) 本論文では基本的な人称語尾を対象としているため，以下の人称変化は除外する。
   a) sein, haben, werden の現在人称変化
   b) 口調上の例外となる以下の人称変化
      ・不定詞の語幹が歯茎破裂音 [t] で終わる動詞（waren, finden など）および［－流音］の子音＋鼻音 [m]・[n] で終わる動詞（rechnen, öffnen など）の現在人称変化
      ・不定詞の語幹が歯茎摩擦音 [s] および歯茎破擦音 [ts] で終わる動詞（reisen, tanzen など）の現在人称変化
      ・過去基本形が歯茎破裂音 [t] で終わる動詞（bitten, finden など）の過去人称変化
      ・過去基本形が歯茎摩擦音 [s] および歯茎破擦音 [ts] で終わる動詞（lesen, schmelzen など）の過去人称変化
5) 多くの教科書で「現在人称語尾」という名称が用いられており，ここでもこの名称を暫時用いることにするが，この名称に関しては，3.2. で検討する。
6) 変化表においては，以下の点で表記を統一してある。
   a) 3 人称単数は er のみを挙げる。
   b) 敬称の Sie は 3 人称複数の sie を転用したものであり，その定動詞も 3 人称複数の sie に対するものと同形になる。筆者は，敬称の Sie の定動詞も，教科書の各人称変化表で挙げるほうが学習者にとってわかりやすいと考えるが，本論文では省略する。
7) 以下，変化表における▲は，人称語尾がつかないことを表わす。
8) この点に関しても，話法の助動詞と同様に，一部の教科書では言及されているが，他の多くの教科書では，単に人称変化表が記載されているのみである。
9) 変化表の記載に際して，教科書によって表記などが異なるため，本論文では，以下の点で表記を統一してある。
   a) 教科書で例として用いられている動詞が異なる場合でも，各人称変化で原則これを統一する。
   b) 変化表に発音や意味などが記載されているものもあるが，これらは省いてある。
   c) 文字の強調（太字，斜体など）は，太字に統一してある。
   d) 括弧は，丸括弧（パーレン）や角括弧（ブラケット）が主に用いられているが，丸括弧に統一してある。
10) 提示方法 B の場合も，具体的な動詞の人称変化は，上記の表 8 および表 10 と同じであるため，ここでは人称変化表を省略する。

11) （厳密には wollen 以外の）話法の助動詞と wissen は現在人称変化で過去人称語尾が用いられる過去現在動詞（Präteritopräsens）であり，そのため同一の現在人称変化をする（川島（編）(1994) S.749 f.）。

12) 接続法第Ⅰ式・第Ⅱ式基本形はすべて -e で終わる。これは元来，接続法の接辞が -e であるためである。

13) タイプⅡb の人称語尾が教科書で初めて出てくるのは過去人称変化であるが，通常，過去人称変化は初級文法の教科書の中盤で出てくる。そのころには，ドイツ語の語尾に -ee- という形態が用いられないことを学習者は理解していると思われるが，このような注釈を記載することが望ましいと思われる。

14) er kann ではなく er kannt など。

15) この新たな名称に関しては，必ずしも「第Ⅰ」「第Ⅱ」である必要はない。例えば，「人称語尾 A」「人称語尾 B」なども可能であろう。

参考文献

Dudenband 4.－Die Grammatik (2005). Hrsg. von der Dudenredaktion. 7. Aufl. Mannheim, Leipzig, Wien, Zürich.

Dudenband 9.－Richtiges und gutes Deutsch (2001). Hrsg. von der Dudenredaktion. 5. Aufl. Mannheim, Leipzig, Wien, Zürich.

榎本　重男 / 田ノ岡　弘子 / 秋葉　裕一 (2005)：ドイツ文法　これならわかる［改訂版］. 白水社.

藤代　幸一 / 保阪　靖人 (2003)：ワンポイント・ドイツ文法［改訂版］. 郁文堂.

Helbig, Gerhard / Joachim Buscha (2001)：Deutsche Grammatik. Ein Handbuch für den Ausländerunterricht. Berlin, München.

人見　明宏 (2008)：ドイツ語Ⅰ（総合）文法［2009 年度版］.（自主作成教材，PDF 版，http://www.k5.dion.ne.jp/~ahitomi/）.

――― (2008)：ドイツ語Ⅰ（総合）文法・練習問題［2009 年度版］.（自主作成教材，PDF 版，http://www.k5.dion.ne.jp/~ahitomi/）.

本田　和親 (2000)：基本ドイツ文法. 同学社.

保阪　良子 (2007)：ドイツ文法ガイド A－Z. 同学社.

岩﨑英　二郎 / 平尾　浩三 (2006)：初歩ドイツ文法［新正書法対応］. 同学社.

川島　淳夫（編）(1994)：ドイツ言語学辞典. 紀伊國屋書店.

前田　良三 / 高木　葉子 (2009)：身につくドイツ文法　Ver.2. 郁文堂.

室井　禎之 / 人見　明宏 (2005)：独検 4 級突破. 三修社.

――― (2005)：独検 3 級突破. 三修社.

中山　豊 (1996)：コレクション・ドイツ語 8　文法. 白水社.

成田　節 (2009a)：練習で覚えるドイツ語初級文法［改訂版］. 郁文堂.

――― (2009b)：ドイツ語文法の基礎. 同学社.

西本　美彦 / Angelika Nishimoto / 金子　哲太 (2007)：システマティック・ドイチュ 12. 郁文堂.

西本　美彦 / Angelika Nishimoto / 高田　博行 (2006)：文法システム 15－新改訂［新正書

法対応]. 同学社.
大岩　信太郎 (2001):ドイツ文法－必修と選択. 三修社.
――――― (2005):英語対照　新ドイツ文法 14 時間. 三修社.
――――― (2009):新正書法版・身につくドイツ文法. 同学社.
斎藤　佑史 / 荒木　詳二 (2007):若草のドイツ語文法. 三修社.
酒井　明子 / 佐藤　俊郎 / 清水　薫 / 石原　竹彦 (2007):新ドイツ語の泉. 郁文堂.
清水　薫 (2008):改訂版 ドイツ文法・100 語の世界. 同学社.
薗田　宗人 / 斧谷　彌守一 / 小川　さくえ (2005):実習初歩ドイツ語[新改訂]. 白水社.
湯淺　英男 (2006):新訂・12 課で学ぶドイツ文法. 同学社.
在間　進 (1992):詳解ドイツ語文法. 大修館書店.
――――― (1999):現代ドイツ語文法(初級編). 三修社.
――――― (2002):現代ドイツ語－初級文法篇[新正書法版]. 郁文堂.